

目 次

1	目的と位置付け	1
1-1	目的	1
1-2	位置付け	2
1-3	対象区域	3
1-4	目標年次	3
2	まちづくりの現状と課題等	4
2-1	南区の現状と課題等	4
2-2	真駒内地域の現状と課題等	6
3	真駒内駅前地区のまちづくりの目標	14
3-1	基本方針	14
3-2	基本目標	15
4	当面の取組 ～旧真駒内緑小学校の活用～	16
4-1	取組の考え方	16
4-2	活用の内容	16
5	将来的な取組の方向 ～駅前地区の土地利用の再編～	18
5-1	取組の考え方	18
5-2	土地利用再編イメージ	18
5-3	土地利用再編に合わせた総合的な取組	19
6	取組の展開方針	20
	参考資料	21
	まちづくり指針策定の経緯	22
	市民意見の反映に関わる取組	23

1 目的と位置付け

1-1 目的

南区は、豊平川などの豊富な水や藻岩山のみどりなどの豊かな自然に恵まれ、ゆとりある居住環境が形成されているとともに、芸術の森や定山溪などの芸術文化拠点や観光拠点、札幌市立大学をはじめとする教育機関など、多様な地域資源を有しています。

このうち真駒内地域^{※1}は、計画的に整備されたみどり豊かな住宅地として発展してきました。昭和47年（1972年）には、札幌冬季オリンピックの主会場となり、真駒内屋内競技場などのスポーツ施設、真駒内公園など現在の真駒内地域を特徴づける施設整備が集中的に進められました。

しかし近年、南区では、10区の中で初めて人口が減少し始め、少子高齢化も進行しています。真駒内地域でも、南区の他の地域と同様に人口減少と少子高齢化が進行し、平成24年（2012年）4月には、こうした人口構成の変化から地域の小学校が統合され、閉校となった小学校の跡利用の検討も必要となっています。

また、真駒内駅前地区^{※2}（以下「駅前地区」という。）については、札幌冬季オリンピックや政令指定都市移行の前後に集中的に建築された市有施設等が多く立地しており、今後それぞれが更新時期を迎えることとなります。さらに、地下鉄南北線の始発駅として札幌市南部と都心方面を結ぶ重要な位置にありながら、通勤・通学の通過点としての利用にとどまり、真駒内地域や南区の豊富で魅力ある地域資源を活かしきれていない状況も見受けられます。

こうした認識のもと、これからの真駒内地域のまちづくりについては、人口減少・少子高齢化の進行に伴う課題に対応することはもとより、地域資源を活かした創造的なまちづくりに取り組む視点も求められます。

この「真駒内駅前地区まちづくり指針」（以下「まちづくり指針」という。）は、駅前地区を真駒内地域はもとより南区全体の拠点として捉え、南区及び真駒内地域の課題に対応するとともに、多様な地域資源を活かしたまちづくりを先導する取組として駅前地区の再生を図るため、駅前地区のまちづくりの目標と取組の方向を示すものです。

※1 真駒内地域…まちづくり指針では3ページに示す真駒内まちづくりセンター所管区域

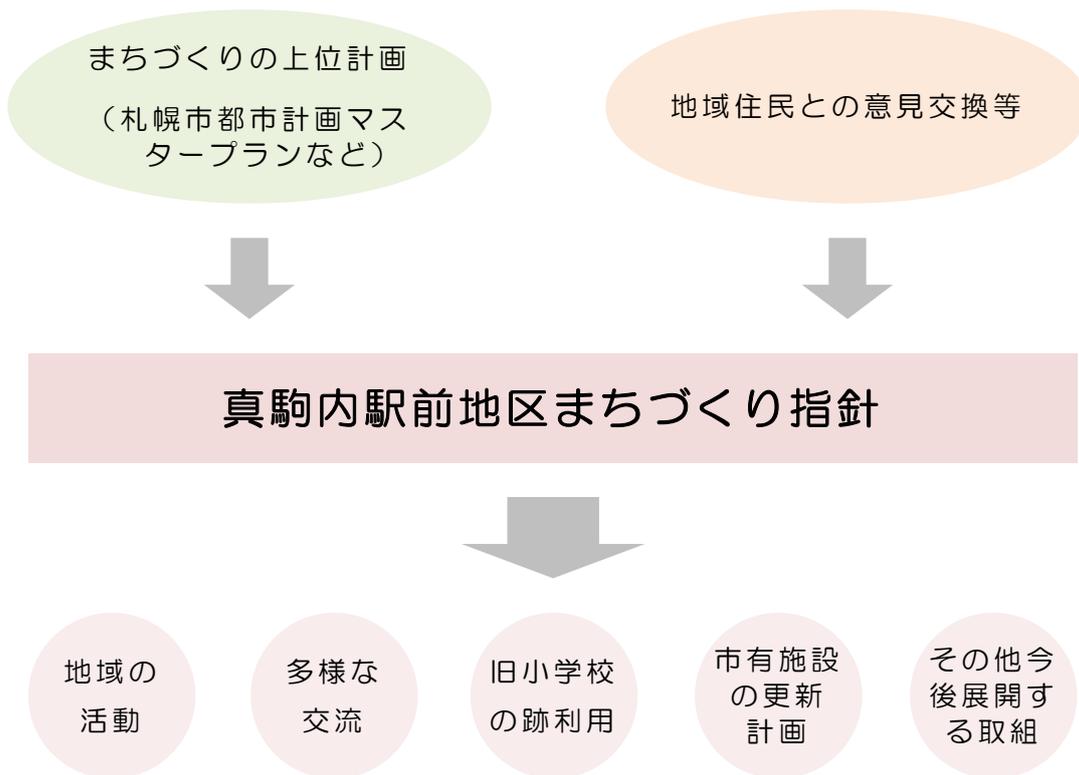
※2 真駒内駅前地区…まちづくり指針では3ページに示す対象区域

1-2 位置付け

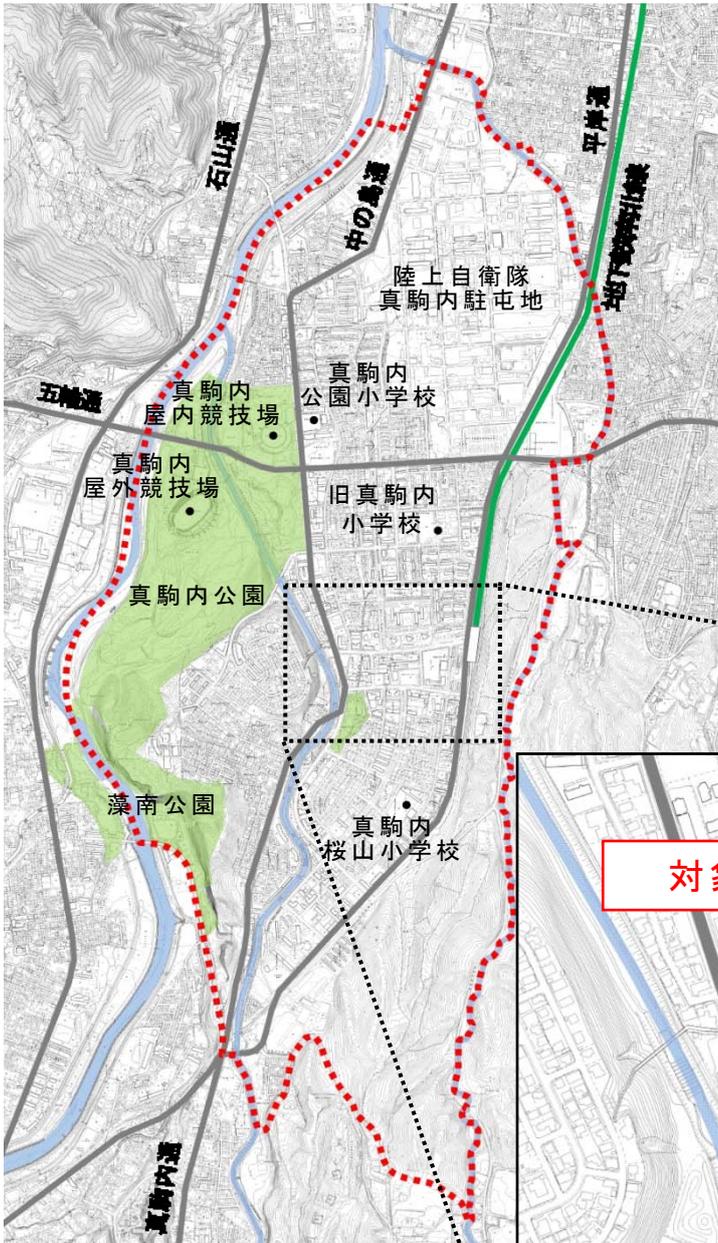
まちづくり指針は、地域住民等と札幌市が確認・共有する今後の取組の指針です。

そのため、札幌市のまちづくりに関する上位計画に即した内容にするとともに、地域住民との意見交換等を踏まえてまとめました。

今後、このまちづくり指針を踏まえた取組を展開することにより、駅前地区の再生を目指します。



1-3 対象区域



真駒内地域
(上図の赤点線内の区域)

まちづくりを展開するに当たっては、将来的な土地利用転換の動向を見据えながら取り組むことが重要であるとの観点から、真駒内駅周辺の今後更新時期を迎える市有施設が集積した区域を中心とした駅前地区（下図）を対象区域とします。

なお、まちづくり指針策定に当たっては、南区及び真駒内地域全体からの視点も考慮します。また、対象区域の周辺で、将来的に土地利用転換等がなされる場合には、まちづくり指針を踏まえた連携等についても検討を行います。



1-4 目標年次

まちづくり指針は将来に向けた取組の方向を示したものであるため、具体的な目標年次は設定していません。

そのため、「5 将来的な取組の方向」については、対象区域内の市有施設等の更新時期を見極めながら実現を目指すこととします。ただし、「4 当面の取組」については、まちづくり指針を踏まえてすみやかに取り組むものとした事業スケジュールを示しています。